

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 6 日現在

機関番号：12611

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2014～2016

課題番号：26370404

研究課題名（和文）日中説話比較に向けての敦煌文献説話研究

研究課題名（英文）A Study of the Tales in Dunhuang Manuscripts: Advances in Comparative Studies of Japanese and Chinese Folktales

研究代表者

伊藤 美重子（ITO, MIEKO）

お茶の水女子大学・基幹研究院・教授

研究者番号：40251871

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：敦煌写本中の説話文献について、より鮮明な画像により原文を確定し、日本語訳と注釈を作成した。研究成果報告書『敦煌説話文献訳注稿』（29年3月刊）を刊行し、茶酒論、燕子賦（乙本）、韓朋賦、晏子賦、葉浄能詩、舜子至孝変文、王陵変文の原文・日本語訳・注釈、鈔本リスト、先行研究・参考文献リスト、作品概要や研究論文、日中の関連資料を載せた。特に韓朋賦および舜子至孝変文に関しては、関連する日本資料が多く、日中の文化交流が確認できる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to determine, by means of clearer images, the text of some of the tales in Dunhuang manuscripts and to make their Japanese translation and annotations. As the report of this study, we wrote Japanese Translation and Annotations of Dunhuang Tales (March, 2017). Treated in this book are the following seven works: Chajulun, Yanzifu, Hanpengfu, Anzifu, Yejingnengfu, Shunzizhixiaobianwen and Wanglingbianwen. Included are: the texts of these works; the Japanese translation and annotation. Also included are list of manuscripts, bibliography, together with summary of the works, list of monographs, and Japanese/Chinese data related to these works.

Because there is a lot of Japanese data related to Hanpengfu and Shunzizhixiao-bianwen,, we can confirm the existence of folktales in central China that connect Dunhuang and Japan.

研究分野：中国文学

キーワード：中国文学 民間文学 敦煌文書 語り物

### 1. 研究開始当初の背景

敦煌文献はその当時の人々の生活を伝える写本が多く含まれ、通俗文学に関する貴重な情報を伝えてくれる貴重な一次資料である。敦煌の説話文学作品には、入矢義高、金岡照光、川口久雄を代表とする先学による優れた研究成果があり現在もその価値を失ってははいないが、敦煌写本の多くが鮮明な写真や画像として公開されている現在にあって、鮮明な画像による文字の再検討を経ての原文の確定、その原文に盛り込まれた説話についての詳細な調査により、日本と中国の説話の比較研究へ新たな資料を提供し得ると考える。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、敦煌文献中の説話に関する基礎資料を作成し、中国および日本、ひいては韓国・越南を含めた所謂「漢文文化圏」の説話研究に資する利用価値の高い基礎資料を提供することを目的とした。具体的には、敦煌文献の中の説話的要素を多く含む文学作品の翻訳と訳注の作成であり、訳注には中国および日本における類似の説話の情報を盛り込み、影印本やインターネットにより、より鮮明な画像を用いて、信頼にたる原文を得て、中国および日本の最新の研究成果に基づいた敦煌文献中の説話に関する最新の情報を提供することである。

### 3. 研究の方法

研究の方法としては、敦煌文献中の説話文献について、各文献の担当者を決め、月一回の研究会を開催し、相互に情報を交換しながら担当文献に関して、各自が担当する文献に関して、鈔本の調査次の作業を行った。

- (1)最新の先行研究の情報
- (2)最新の鈔本情報に基づく底本の確定
- (3)底本の原文の確定
- (4)底本原文に基づく翻訳
- (5)翻訳の根拠となる語釈、校記の類
- (6)説話部分には出典および類似説話に関する情報(中国典籍および日本典籍)

### 4. 研究成果

研究会の成果として、すでに紙媒体により『敦煌説話文献訳注稿』(全 233 頁)を平成 29 年 3 月に刊行した。紙媒体報告書の概要をここに記すこととする。報告書で扱った文献は、「茶酒論」「燕子賦(乙本)」「以上、三瓶はるみ担当)」「韓朋賦(和田和子)」「晏子賦(塚越千史)」「葉浄能詩(森田さくら)」「舜子至孝变文(大西由美子)」「王陵变文(伊藤美重子)の 7 作品である。

(1)「茶酒論」は、8 点の写本が存在し、そのうち首尾欠落のない、P.2718 を底本として他の 7 点との異同を脚注として注記する。各文献においては、必ず鈔本の欠落状況、存行数、首部、尾部の文章、備考として接続記載される文献や紙裏(または紙表)の書写に関する

情報、題記に関する情報などを記した「鈔本リスト」を付している(本書での鈔本リストの記載の原則である)。その他、訳注作成にあたり参照した先行研究や参考文献についてもリスト化して附載する。「茶酒論」は、その登場人物は、茶、酒、水であり、これらを擬人化して、その優劣を述べるというものである。その論争の中で、茶や酒の産地や名産品の情報から、仏教故事などが含まれ、訳注においては、それらの出典を調査・記載している。「茶酒論」の形式は「賦」のスタイルであり、押韻字には注記をしている。

(2)「燕子賦(乙本)」は、鈔本は P.2653 の 1 点しか存在せず、全編が五言詩の 1500 字ほどの短編である。「燕子賦」には、別に賦体のもの(甲本)が存在するが、本書では、乙本を取り上げている。燕子賦は、ツバメの巢をめぐるスズメとツバメが裁判で争うというストーリーで、茶酒論と同じく、擬人化した鳥同士の論争からなる。この論争には、当時の俗言がふんだんに用いられている。出典の判明したものについては、注記している。

(3)「韓朋賦」は、古来より伝わる韓朋夫婦の説話を、一篇の叙事詩として当時語られ詠われた物語である。その文体は、四言句を主とし、ときに六言句をはさみ、散文部分も幾分あるものの、おおむね全編を通じて、緩急のある詩となっている。鈔本は 5 点あり、P.2653 を底本とし、他鈔本との異同を注記する。韓朋説話は伝承が古く、訳注においては、関連故事を注記するとともに、「韓朋説話関連資料」として、80 点もの中国および日本の関連資料を載せている。韓朋説話のアジアにおける広がりを知る事ができる。ここに、敦煌と日本をつなぐ、中国中央での伝承の存在が示される。

(4)「晏子賦」にはペリオ本 5 点、スタイン本 2 点、ロシア本残片 4 点の計 11 点の鈔本のうち、P.2564 を底本とする。これまで、あまり用いられていなかったロシア本の残片を用いて、詳細な校記を記している。校合に多くの作業が費やされ、「晏子賦」にも多くの故事が用いられているが、出典に関する注記が少なくなってしまうことが惜しまれる。

(5)「葉浄能詩」は、その鈔本は、S.6839 の 1 点のみしか存在していないものであり、葉浄能という名の道士が、「符」というお札を使った法術を駆使して様々な難題を解決してゆくという物語である。「葉浄能詩」には、いくつかのエピソード(説話)が含まれ、なかでも葉浄能が、玄宗を月につれてゆくという話があり、玄宗の月旅行の最古の資料といわれている。玄宗のこの説話は、後世にも影響を与えた。担当者は、葉浄能詩の説話の構造について分析・考察し、本書では、「葉浄能詩」説話部分の構造を図式化した表を載せている。

また、説話に関連する資料を先行研究を踏まえながら、『搜神記』『酉陽雜俎』『太平広記』

などの書から搜索した結果をまとめた表を載せている。

(6)「舜子至孝変文」は、古代の王・舜に関する物語である。古来より伝わる舜にまつわる説話を、継子いじめの話として物語化したもので、鈔本は、S.4654とP.2721vの2点のみであり、S.4654には首題があり、題も含め23行のこるが、尾部は欠落している、一方P.2721vは、首部に欠落があるが尾部は完備しており、識語もある。S.本とP.本の間には、重なる部分がなく、欠落した部分にはどのようなストーリー展開になっていたのかは不明である。敦煌本に見える5つの説話、倉に火をつける話、井戸さらいの話、歴山の話、瞽叟の開眼の話、堯の二人の娘が舜に嫁す話について、中国および日本における資料を載せる。この5種の説話要素は、みな日本に伝承されていることが確認できる。先の韓朋賦と同様に、敦煌と日本を結び、中国中央での伝承の存在が確認されるのである。また、中国と日本における伝承の改変の様相を調査することで、日中の嗜好のあり方の異同についても考察を深めることができよう。

(7)「王陵変文」は、鈔本は5点であり、みな小冊子の体裁をもつ。5点のうち、P.3627とP.3867は同一冊子であり、この2点は接合することができ、この2点で一つの冊子体の「王陵変文」が得られ、これを底本とする。「王陵変文」は、『史記』巻56「陳丞相世家」に記される所謂「陵母伏剣」の故事を脚色した語り物である。王陵変文には「從此一鋪、便是変初」の語があり、「鋪」は絵画を数える時の数量詞であり、この語があることから、先行研究では、王陵変文が「絵画」を用いた語り物であるということが指摘されている。最初の「王陵変文」を紹介する部分では、王陵変文は、その内容から8場面に分かれ、おそらくそれらの場面にふさわしい絵とともに、語りそして詠じられたと推定される。王陵変文と『史記』での「陵母伏剣」の故事との比較を行い、場面ごとの語りの様相を推定し、王陵変文には、絵画、散文、韻文を用いて、物語を効果的に演出するための様々な工夫がなされていることを述べた。また、王陵説話とくに「陵母伏剣」の故事についての資料(「王陵説話(陵母伏剣)」故事資料)を巻末に載せた。

本科学研究課題にある「日中説話比較に向けて」ということについては、先にも述べたように、韓朋賦、舜子至孝変文には、関連する日本資料が多く存在し、敦煌と日本を結び中国中央での民間説話の存在が確認でき、韓朋説話関連資料として、66件を載せ、うち5件は室町期、江戸期の類似資料である。また、韓朋賦を担当した和田和子は、さらに「敦煌本『韓朋賦』と「語り」の時空」(『お茶の水女子大学中国文学会報』36(2017、4)において、「語り物」の観点から敦煌に残された韓朋賦と日本の『仮名本曾我物語』に登場す

る遊女の語りの中に登場する韓朋の物語の類似性を指摘する中で、韓朋説話には、3種類の系統があり、その3系統が日本にも伝わったことを確認している。

る日本資料が多く存在し、敦煌と日本を結び中国中央での民間説話の存在が確認でき、前掲紙媒体報告書『敦煌説話文献訳注稿』の第3章(5)には、韓朋説話関連資料として、66件を載せ、うち5件は室町期、江戸期の類似資料である。また、韓朋賦を担当した和田和子は、さらに「敦煌本『韓朋賦』と「語り」の時空」(『お茶の水女子大学中国文学会報』36(2017、4)において、「語り物」の観点から敦煌に残された韓朋賦と日本の『仮名本曾我物語』に登場する遊女の語りの中に登場する韓朋の物語の類似性を指摘する中で、韓朋説話には、3種類の系統があり、その3系統が日本にも伝わったことを確認した。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5 件)

和田和子、敦煌本「韓朋賦」と「語り」の時空、『お茶の水女子大学中国文学会報』、査読有、36、2017、pp1-10

森田さくら、S.6836「葉浄能詩」について 説話の構造をめぐって、『お茶の水女子大学中国文学会報』、査読有、35、pp1-16

伊藤美重子、敦煌写本「醜女縁起」について P.3048 の特質、『お茶の水女子大学中国文学会報』、査読有、34、2015、pp1-17

荻原千鶴、九州風土記と『出雲国風土記』 - 中国南朝地方誌・『水経注』をめぐって、『古事記年報』、査読有、57、2015、pp1-34

〔学会発表〕(計 11 件)

荻原千鶴、大伴旅人論に向けて、お茶の水女子大学国語国文学会、2016年12月3日、お茶の水女子大学(東京都文京区)

伊藤美重子、敦煌写本「目連縁起」の特質、お茶の水女子大学中国文学会大会、2016年4月23日、お茶の水女子大学(東京都文京区)

荻原千鶴、風土記の時空、日本女子大学日本文学談話会、2015年10月22日、日本女子大学目白キャンパス、東京都文京区

荻原千鶴、古代文学の中の女性たち、奥出雲町シンポジウム、2015年11月22日、島根県出雲町カルチャープラザ仁多、島根県出雲町

荻原千鶴、『出雲風土記』の位相 九州風土記との比較から、古事記学会、2014年6月21日、くにびきメッセ国際会議場、島根県松江市

〔図書〕(計 2 件)

伊藤美重子、『敦煌・吐魯番の文書世界とその時代』、2017年3月、東洋文庫、共著、493(pp373~387)

伊藤美重子編著、『敦煌説話文献訳注稿』  
2017年3月、編者印 共著、233(pp198～233)

〔その他〕  
ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

伊藤 美重子 (ITO, Mieko)  
お茶の水女子大学・基幹研究院・教授  
研究者番号：40251871

##### (2) 研究分担者

荻原 千鶴 (OGIHARA, Chizuru)  
お茶の水女子大学・基幹研究院・教授  
研究者番号：20109226

##### (3) 連携研究者 なし

##### (4) 研究協力者

三瓶 はるみ (SANPEI, Harumi)  
和田 和子 (WADA Kazuko)  
塚越 千史 (TUKAGOSHI, Chifumi)  
鈴木 涼子 (SUZUKI, Ryouko)  
大西 由美子 (OONISHI, Yumiko)  
満田 琴美 (MITSUDA, Kotomi)